

【特色あるフロンティアスクールの取組事例】
 (別紙様式)

都道府県番号	9
都道府県名	栃木県

()
 該当する観点にチェックをすること

・学校名及び規模

小山市立若木小学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	1	2	2	2	2	2	1	12	18	
児童数	39	48	41	52	54	47	5	286		

・実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

<p>・主題(テーマ)</p> <p>「確かな学力」の向上を図るための指導の工夫</p> <p>- 個に応じた指導方法及び指導体制の工夫・改善 -</p> <p>・テーマ設定の趣旨</p> <p>(1) 新学習指導要領では、ゆとりの中で特色ある教育を展開し自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本とし次のようなことが提言された。</p> <p>教育内容の厳選と基礎・基本の徹底を図ること</p> <p>一人一人の個性を生かすための教育を推進すること</p> <p>豊かな人間性とたくましい体をはぐくむ教育の改善</p>
--

横断的・総合的な指導を推進するための「総合的な学習の時間」を設置すること

完全学校5日制の導入

その後、文部科学省では、確かな学力向上のための2002アピールの中で「学びのすすめ」を提唱し、また、個に応じた指導に関する指導資料を発刊するなど、確かな学力の向上を図る指針を示した。

(2) 児童の実態

本校の児童は、進んで物事に取り組もうとする態度が見られる。また、自分の考えを進んで表現しようとする意欲も見られる。

しかし、友達の意見を参考に考えを深めたり、自分で物事を解決したりする力が不足している。

(3) 保護者及び地域の実態

保護者は学校教育に対して、協力的であり、関心も高い。

アンケート結果によると、学校週5日制の実施に当たり「家族で過ごす時間が増えてよかった」「子どもにゆとりができてよかった」など肯定的な意見が多い反面、全学年を通して「学力低下が心配」と考えている保護者が約半数みられ、個に応じた指導に期待する意見が多く出された。

そこで、「確かな学力」の向上を図るための学校の取組を保護者へ知らせ理解と協力を得ながら推し進めることが必要と考える。

以上のことから、＜「確かな学力」の向上を図るための指導の工夫＞を研究主題に設定し「個に応じた指導方法及び指導体制の工夫改善」を通して研究を進めていくこととした。

・実践研究の内容について（選択した観点を中心に記述）

() 研究体制の工夫

- (1) 児童の実態を把握し、本校の課題を明確にする。
- (2) 一人一人の児童の実態に応じたきめ細かな指導の工夫改善を図るため、授業研究部、教材開発・評価研究部、企画部の3つの部を組織し、互いに連携を図りながら実践研究する。
- (3) 算数の授業研究を通して得られた成果を他教科等に生かす。
- (4) 学級の枠をはずし、教師間の連携を図りそれぞれの専門性や特性を生かし、協働体制で研究を進める。
- (5) 保護者への啓発を計画的・継続的に行い、理解と協力を得る。

() 実践研究の内容

- (1) 個に応じた指導方法・指導体制の工夫改善
 - ア 算数科を中心に、理解や習熟の程度に応じた指導等コース別学習の在り方を研究する。
 - イ 発展的な学習や補充的な学習等個に応じた指導のための教材を開発する。
- (2) 指導に生きる評価の工夫改善
 - ア 具体的な評価規準を設定する。
 - イ 指導と評価の一体化を図るため、多様な評価方法を研究する。

- (3) 基礎学力や基本的な学習習慣及び学び方を定着させるための工夫
 - ア 集中力、読解力、漢字力、計算力の向上を図るための時間の活用を図る。
 - イ 効果的なノートの取り方、自主的な学習への取り組みを工夫する。

(4) 家庭との連携

- ア 学校だより・学年だよりを活用した啓発を工夫する。
- イ 授業参観・懇談会の充実を図る。

() 成果と課題

成果

(1) コース別学習の児童の意識と分析

<表 - 1 > <表 - 2 >より、クラスの枠をはずしコース別学習を取り入れた場合、少人数の集団になるので個に応じた指導が行き届き、結果として理解できる児童が増えたり、発表する機会が増えたりして「よかった」という児童が多い。

しかし<表 - 3 >より、コース別学習は、人間関係の成立が不十分だと機能しにくい面や、一斉学習より集団で練りあう時間が少なくなり、そこにとまどいを感じている児童もいることがつかめた。そこで本校では、道徳教育、児童指導等を基盤に心の教育を充実し、コース別学習の中に一斉学習のよさ（グループ学習、練りあいの時間等）を取り入れて指導過程の工夫改善をしていけば、よりよい学習が成立され確かな学力が身につけられると考えている。

表 - 1 コース別学習について

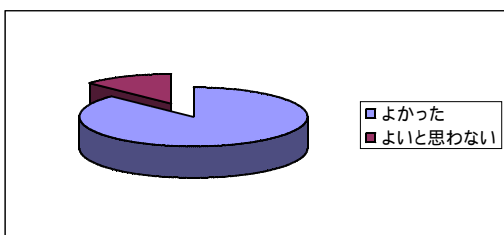


表 - 2 よかった理由

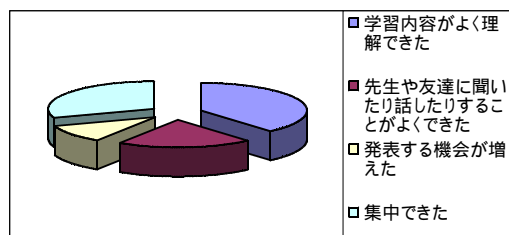
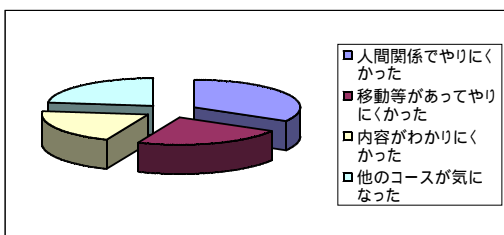
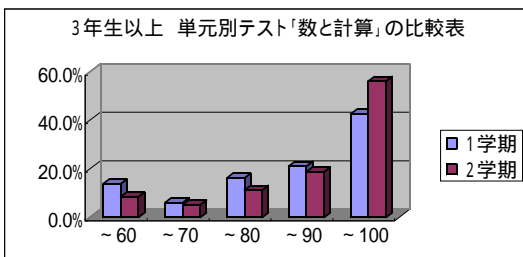


表 - 3 よく思わない理由



対象：複数教員によるコース別学習を実施して3年生から6年生の児童197名H15.2.3実施

表 - 4 3年～6年「数と計算」到達度



3年生から6年生の児童197名H14.12.5実施

対象：「数と計算」の1学期と2学期単元別テストの結果比較

(2) A領域「数と計算」における学習結果

<表-4>より、理解の不十分な児童への学習効果や概ね理解の児童が十分達成へ移行している様子が見える。この傾向はどの学年にも見える。このことから、少なくとも「数と計算」領域において効果を現していると考えている。

課題

- (1) 「数と計算」で得た研究成果を他の領域にも生かし深化を図る。
- (2) 具体的な子どもの姿で目標や評価規準を表すとともに、評価の客観性、妥当性、信頼性を高めていく。
- (3) 自己評価に工夫を加えていく。情緒的なレベルから分析的なレベル、自分の学習をモニターできるような評価となるよう記述式の評価を工夫していく。
- (4) 「心の教育（特に道徳教育と児童指導）」の充実を図る。

() 成果の普及方策

日 時：平成14年11月15日

場 所：栃木市皆川地区公民館

テーマ：学力向上フロンティアスクール研究推進について

対 象：下都賀地区小・中学校教務主任

(別紙様式)

都道府県番号	9
都道府県名	栃 木 県

()
該当する観点にチェックすること

・学校名及び規模

大田原市立若草中学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	3	3	4	/	/	/	1	11	22	
児童数	99	103	133	/	/	/	5	340		

・実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

<p>・主題（テーマ） 「主体的に学ぶ生徒の育成を目指して」 - 一人一人の学びの心を大切にされた指導法や指導体制の工夫・改善 -</p> <p>・テーマ設定の趣旨</p> <p>(1) 生徒自らが学び続ける意欲と態度は、社会の変化に主体的に対応しながら心豊かにたくましく「生きる力」の中心的な要素であり、この「生きる力」の育成こそが急速に変化する社会の要請であると共に学校教育の大きな目標でもある。</p> <p>(2) 学校教育の大部分を占める学習活動や家庭生活の中で、生徒自らが主体的に学ぶ学習様式（学び方）の形成を図ることは大切な課題であり、その活動が意欲的に継続されれば、獲得される学力は、生きてはたらく「確かな学力」となるであ</p>
